

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

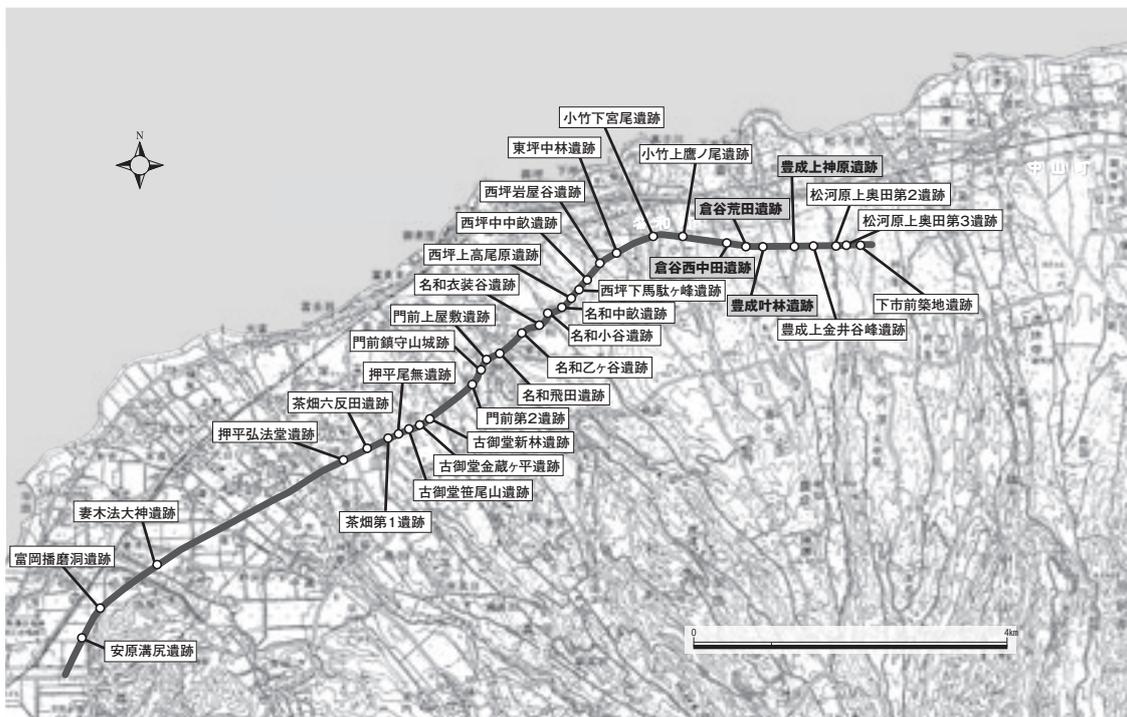
本調査は、平成22年度及び平成23年度に一般国道9号名和淀江道路の改築に伴い実施した周知の埋蔵文化財包蔵地(以下遺跡)の本発掘調査である。本発掘調査を実施した遺跡は倉谷西中田遺跡(大山町倉谷)、倉谷荒田遺跡(大山町倉谷)、豊成叶林遺跡(大山町豊成)、豊成上神原遺跡(大山町豊成)である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町を通る名和淀江道路の計画地内及び隣接地には、多数の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・性格・内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成2年度から大山町、名和町各教育委員会(いずれも当時)、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査を行った。

試掘・確認調査の結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成12年度から平成16年度にかけては、財団法人鳥取県教育文化財団が調査主体となり、安原溝尻遺跡など17箇所の遺跡の本発掘調査が行われた。また、平成17・18・20～22年度には鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、門前上屋敷遺跡など17箇所の遺跡の本発掘調査を行った。発掘調査終了後には各報告書が刊行されている。

平成22年度は、豊成叶林遺跡の一部、平成23年度は倉谷西中田遺跡2区、倉谷荒田遺跡の一部、豊成叶林遺跡の一部、豊成上神原遺跡の一部、西坪中中畝遺跡の一部が本発掘調査の対象となった。



第1図 名和淀江道路関係遺跡位置図

第1章 調査の経緯

参考文献

- 大山町教育委員会1990『大山町内遺跡発掘調査報告書 安原所在遺跡・平第2遺跡』大山町埋蔵文化財調査報告10
- 名和町教育委員会2000『名和町内遺跡分布調査報告書』名和町埋蔵文化財発掘調査報告書第26集
- 名和町教育委員会2004『名和町内遺跡発掘調査報告書』名和町文化財調査報告書第33集
- 鳥取県埋蔵文化財センター2010『小竹下宮尾遺跡 西坪岩屋谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書29
- 大山町教育委員会 2010『町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ（平成19年度・平成20年度実施分）』大山町文化財調査報告書第9集
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2011『豊成上神原遺跡 豊成上金井谷峰遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書33
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2011『倉谷荒田遺跡 松河原上奥田第3遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書34
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2011『倉谷西中田遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書36

第2節 調査の方法と経過

1 調査地の名称と調査方法（第2・3図）

いずれの遺跡についても、検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー（6×7）判及び4×5判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影（ブローニー判カメラ使用）も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー（6×7）判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。以下、遺跡ごとの個別事項について述べる。

倉谷西中田遺跡

遺跡の大部分の調査前の状況は水田であったが、平成23年度調査地（2区）については遺跡内を南北に通る町道であった。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、Y 5杭（X: -54190m、Y: -72820m）、X 6杭（X: -54200m、Y: -72810m）などとなった。標高値は、国土交通省が設置した3級基準点H18-3-7の59.387mを使用した。



第2図 調査地の位置及び周辺地形図

倉谷荒田遺跡

調査前の状況は山林である。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北西杭名を採った。座標は、F 4 杭(X: -54250m、Y: -72380m)、I 6 杭(X: -54270m、Y: -72350m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H18-2-3の71.771mを使用した。

豊成叶林遺跡

調査前の状況は山林及び畑地である。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査地内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北西杭の名称を採り、D 3 (X: -54260、Y: -72300)、I 4 (X: -54270、Y: -72250)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H18-2-3の71.771mを使用した。

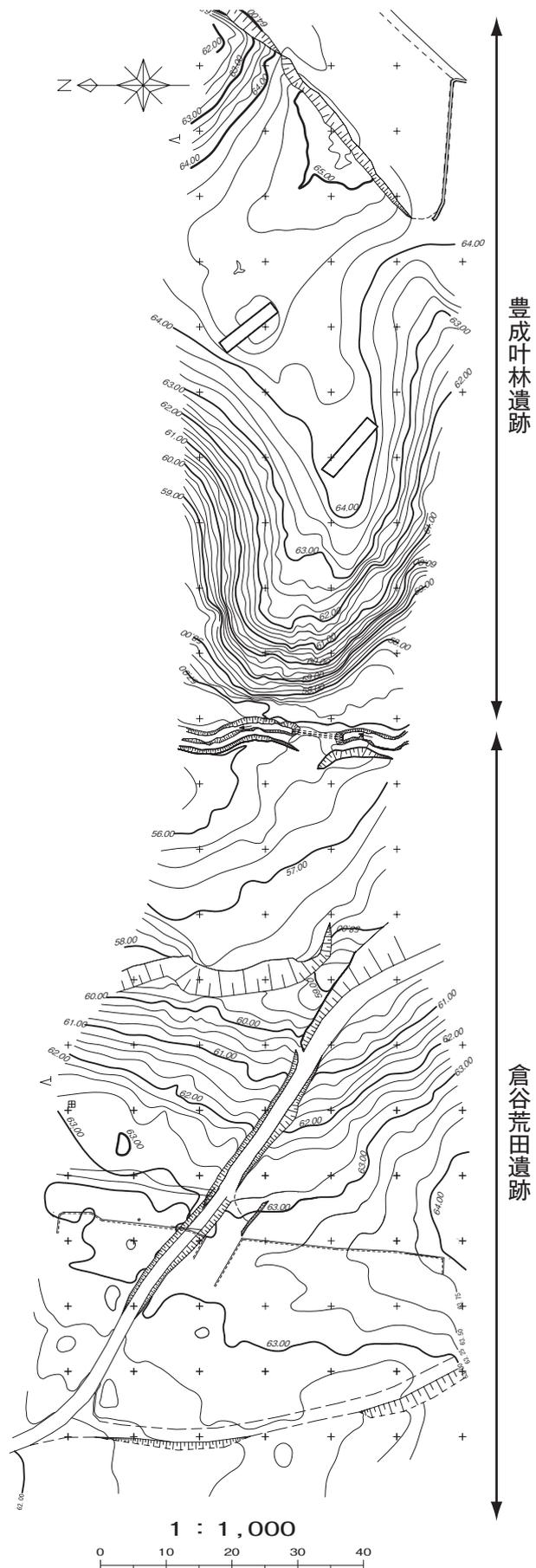
豊成上神原遺跡

調査前の状況は芝畑地である。平成21年度の調査時に、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定してグリッドを設けている。今回実施した平成23年度の調査でもこれを踏襲しグリッドを設けた。グリッド名は東西南北軸交点の北東杭の名称を採り、H 8 (X: -54270m、Y: -72030m)、J 4 (X: -54290m、Y: -71990m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H18-2-3の71.771mを使用した。

2 調査の経過

倉谷西中田遺跡

調査地は平成21年度に調査地の大部分(1・



第3図 倉谷荒田遺跡・豊成叶林遺跡調査前地形測量図

第1章 調査の経緯

3・4区)を調査しており、すでに報告済みである⁽¹⁾。

平成23年度は残る2区が調査対象地であった。調査は平成23年10月7日に重機による表土剥ぎを行い、10月17日に発掘作業員の稼働を開始した。11月16日に遺構掘削及び実測作業を終え、11月24日から12月2日まで調査後地形測量を行い、全ての発掘作業に関わる作業を終了した。調査対象面積は1,250㎡である。調査は濱、八峠、大谷が担当した。

倉谷荒田遺跡

調査地は平成21年度に遺跡西側の丘陵平坦部を調査しており、すでに報告済みである⁽²⁾。平成23年度は、遺跡東側に当たる丘陵の斜面及び谷部分が調査対象地であった。なお、平成21年度調査地との境にはSI5が位置しており、この遺構については床面で検出しているピット及び未調査の東半分程度を平成23年度に調査した。

調査は平成23年4月18日から4月26日まで重機による表土剥ぎを行った後、4月27日から発掘作業員の稼働を開始した。おおむね調査地西側から東側へと調査を行った。遺構の掘削や記録作業は10月21日に終え、11月3日に豊成叶林遺跡と併せて現地説明会を行い、県内外から213名の方々に参加いただいた。11月16日に調査後航空撮影、11月28日から12月2日に調査後地形測量を行い、12月7日をもってすべての発掘調査に関わる作業を終了した。

調査の結果、縄文時代の落とし穴4基、古墳時代前期の竪穴住居跡2棟、古墳時代中期の竪穴住居跡1棟、古墳時代後期以前の掘立柱建物跡1棟等を検出した。調査対象面積は3,818㎡である。調査は濱、八峠、大谷が担当した。

豊成叶林遺跡

豊成叶林遺跡は、平成22年度と平成23年度に調査を行った。

平成22年度は、重機による表土剥ぎを8月18日から8月19日にかけて行った。8月30日から発掘作業員の稼働を開始した。なお、同日から方眼測量を業務委託した。遺構の検出、掘削作業は10月7日をもって終了し、10月8日には、次年度にむけた現場養生を完了した。現場機器の撤収は12月14日をもって完了した。調査の結果、中世のテラス状遺構3基、溝状遺構1条、集石遺構1基等を確認した。調査面積は400㎡であった。調査は門脇・中村・木村が担当した。

平成23年度は、4月27日から発掘作業員の稼働を開始した。調査を進めるなかで、旧石器時代の石器群が始良丹沢火山灰(AT)直下から検出されることが明らかとなったため、10月18日には岡山大学名誉教授稲田孝司先生、11月7日には鳥取大学名誉教授岡田昭明先生に現地指導をいただいた。遺跡の様相が明らかになった11月3日に倉谷荒田遺跡と併せて現地説明会を行った。その後も旧石器時代の調査を中心に現場作業を継続し、12月7日をもってすべての発掘調査に関わる作業を終了した。なおこの間、11月16日に調査後航空撮影、11月28日から12月2日まで調査後地形測量を行った。調査の結果、旧石器時代の石器ブロック2基、縄文時代の落とし穴3基、弥生時代の竪穴住居跡1棟等を検出した。調査面積は平成22年度調査とあわせて2,998㎡となった。調査は門脇・高橋・野津が担当した。

豊成上神原遺跡

豊成上神原遺跡は、平成21年度に西半部の調査を行っており、すでに報告済みである⁽³⁾。平成23

年度調査では残り東半部の調査を行った。調査は基本的に調査地東側から西側に向かって進めていき、南西から北東に延びる谷筋の調査を最後に行った。平成23年4月18日から22日に重機による表土剥ぎ作業後、4月27日から発掘作業員の稼働を開始し、8月10日まで検出・掘り下げ作業を行った。また、4月25日から方眼杭打設を、6月16・17日には谷部を中心とした残りの表土剥ぎ作業を行った。その後8月10日に調査後写真撮影を行い、8月17日から24日の調査後地形測量をもってすべての発掘調査に係る作業を終了した。調査の結果、土坑2基、溝2条を検出した。調査対象面積は、2,992㎡である。調査は原田・松田が担当した。

参考文献

1. 鳥取県埋蔵文化財センター 2011『倉谷西中田遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書36
2. 鳥取県埋蔵文化財センター 2011『倉谷荒田遺跡 松河原上奥田第3遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター
3. 鳥取県埋蔵文化財センター 2011『豊成上神原遺跡 豊成上金井谷峰遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書33

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

平成22年度

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長	久保 穰二郎
次 長	中尾 淳一(兼総務係長)
総 務 係	
副 主 幹	福島 良
主 事	楠原 真衣
事 務 職 員	大丸 真紀、岡村 好美

発掘事業室

室 長	山柊 雅美(兼調整係長)
調 整 係	
発掘調査員	岩垣 命
事 務 職 員	太田垣 聡美(4月～5月)、高橋 恵美子(6～10月)

調査担当(琴浦調査事務所)

副 主 幹	牧本 哲雄(総括責任者)
文化財主事	門脇 隆志、中村 茂央
発掘調査員	木村 健明、松田 重治
事 務 職 員	山根 美穂

平成23年度

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長	久保 穰二郎
次 長	中尾 淳一(兼総務係長)
総 務 係	

第1章 調査の経緯

副主幹 白岩 準市
主事 楠原 真衣
事務職員 大丸 真紀、岡村 好美

発掘事業室

室長 山根 雅美(兼調整係長)

調整係

発掘調査員 岩垣 命

事務職員 倉益 知子

調査担当(大山調査事務所)

副主幹 牧本 哲雄(総括責任者)

副主幹 濱 隆造(倉谷荒田遺跡・倉谷西中田遺跡調査担当責任者)

文化財主事 原田 克美(豊成上神原遺跡調査担当責任者)

門脇 隆志(豊成叶林遺跡調査担当責任者)

八峠 興

発掘調査員 大谷 祐司、野津 旭

事務職員 尾崎 勇真(4月～6月)、小塩 真生、

犬塚 義人(平成23年8月～平成24年3月)

調査日誌抄

倉谷西中田遺跡(平成23年度)

9月27日 石器ブロック2検出
10月7日 重機による表土剥ぎ
10月18日 岡山大学名誉教授稲田孝司先生調査指導
10月17日 発掘作業員稼働開始
11月1日 記者公開
11月16日 遺構実測終了
11月3日 現地説明会
12月2日 調査後地形測量終了。調査終了
11月7日 鳥取大学名誉教授岡田昭明先生現地指導

倉谷荒田遺跡(平成23年度)

11月15日 石器ブロック1・2の石器取り上げ
4月18日 重機による表土剥ぎ開始
11月16日 調査後航空撮影
4月27日 発掘作業員稼働開始
11月17日 石器ブロック2炉跡掘り下げ
10月21日 遺構実測終了
11月28日 調査後地形測量開始
11月1日 記者公開
12月7日 調査後地形測量終了。調査終了
11月3日 現地説明会

豊成叶林遺跡(平成22・23年度)

平成22年度

4月18日 調査地東側及び尾根部表土剥ぎ開始
4月25日 方眼測量開始
4月27日 発掘作業員稼働開始
5月16日 調査地東側及び尾根部掘り下げ開始
8月18日 重機による表土剥ぎ開始
6月15日 調査地東側及び尾根部掘り下げ終了
8月30日 発掘作業員稼働開始
6月16日 調査地西側及び谷部表土剥ぎ開始
9月30日 SX1 検出写真撮影
6月20日 調査地西側及び谷部掘り下げ開始
10月4日 SS1 検出
8月10日 調査地西側及び谷部掘り下げ終了
12月14日 機材等撤収完了
調査後写真撮影

平成23年度

8月17日 調査後地形測量開始
4月27日 発掘作業員オリエンテーション
8月24日 調査後地形測量終了。調査終了
9月16日 石器ブロック1検出写真撮影、斜面下遺構群完掘写真撮影